1

無料の授業案 · 目標1 · 貧困をなくそう

みんなに必要なものって何？

対象年齢 6–10歳 · 45分



イラスト：Noemí Villamuza（木のおかあさんより） · © Noemí Villamuza

物語 · *木のおかあさん*

秘密のかくれがで目を閉じたアブリルは、ワンガリ・マータイの物語を思い描きます。ひとりの女性がバスを降りたのは、木がすっかりなくなったケニアの村のはずれでした。土は乾いてむき出しになり、池はからっぽの穴になり、女性たちは薪と水を求めて毎日もっと遠くまで歩き、子どもたちはやせ細っています。ワンガリは黙って見ていません。いちばん古い木々の森へ行き、大地に許しをもらって七本の苗を掘り出し、自分の庭に植えます。最初に向かいのおばあさんが、やがて村の女性たちが加わり、ぼろ布でテントを縫って種を芽吹かせますが、男性たちは笑います。ワンガリはさらに製材所の主人と地元の役所の扉をたたきます。ひとにぎりの苗が村全体を変えられるでしょうか。巻末では、本物のワンガリ・マータイと、彼女が始めたグリーンベルト運動が紹介されます。

文：Ricardo Alcántara · 絵：Noemí Villamuza

話し合いの問い

ワンガリが着いたとき、村の近くに木がないのはなぜでしょう？池や小川はどうなっていましたか？

学習のねらい

- 8枚以上の絵カードを「必要なもの」と「ほしいもの」に分け、そのうち1枚について理由を説明できる。
- すべての子どもがよりよく生きるために必要なものを3つ挙げられる（例：食べ物、きれいな水、安全な家、学校、医療）。
- 十分なものを持っていない家族を、地域がどう助けられるかを1つ提案できる。

準備するもの

- 「必要なもの・ほしいもの」の絵カード（手早く描いたもの、または古い雑誌から切り抜いたもの）、3〜4人のグループに1セット
- 各グループに、「必要なもの」「ほしいもの」と書いたフラフープ、トレー、または紙を2つずつ
- 付箋またはメモ用紙
- 黒板またはフリップチャート

キーワード

必要なもの — 生きて、元気でいるために、なくてはならないもの
ほしいもの — あるとうれしいけれど、なくても生きていけるもの
貧困 — 必要なものを手に入れるためのお金や支えが足りないこと
分かち合う — 自分が持っているものの一部を、ほかの人にあげること
地域 — 近くでくらし、学び、働いている人たち
公平 — みんなに本当のチャンスがあること

教科との関連

理科: 生き物と、生きるために必要なもの（食べ物、水、すみか、暖かさ）。
地理: 世界の家と地域のくらし；身近で人を助けている場所。
公民・シティズンシップ: 公平さ、分かち合い、思いやり；子どもの権利（国連「子どもの権利条約」）。
算数・数学: 仲間分けと簡単な正の字の表；それぞれのグループのカードの枚数を数える。
国語・言語: 話すこと・聞くこと：「なぜなら」「〜だから」を使って理由を言う。
ユネスコESDコンピテンシー: 規範的なコンピテンシー（何が公平かを考える力）

授業の流れ

無人島へのリュック · 8分

先生

- 長い旅に出るため、小さなリュックに5つだけ荷物を詰めなければならない子ども、サムのお話をする。
- 10枚の絵カード（水、パン、コート、おもちゃの車、薬、ゲーム機、毛布、お菓子、本、サッカーボール）を黒板に示し、5つを選ばせる。
- いくつかの答えを聞き、「どうしてそれを選んだの？」と尋ねる。

児童・生徒

- となりの人と一緒に、サムのために5つ選ぼう。
- 「〜だから」を使って理由を1つ言おう。

必要なもの・ほしいもの 仲間分け · 17分

先生

- 各グループにカード1セットと、ラベルを付けたフラフープまたは紙を2つ配る。
- 1枚のカードで手本を声に出して示す：「水は必要なものです。なぜなら、体は水がないと生きられないからです。」
- 机間指導をしながら、迷いやすいカード（コート、自転車、スマートフォン）について問いかける：どこでも必要なものかな、それとも時と場合によるかな？
- 全体に戻し、「必要なもの」のカードに共通することは何かを考えさせる。必要なものは、私たちが生き、健康で、安全に、学び続けるためのものだと引き出す。
- やさしく説明する：世界には、必要なものを全部そろえられない家族がいる。これを貧困という。それはその家族のせいではなく、地域で助けることができる。

児童・生徒

- 順番にカードを置きながら理由を言って、みんなで仲間分けしよう。
- 意見が分かれたカードは真ん中に置いて、話し合おう。
- それぞれのグループのカードを数えて、正の字で記録しよう。

SDG 1 クラスクイズ · 12分

eco-heroes.org/ja/trivia/?sdg=1&diff=easy

先生

- 問題を1問ずつ読み上げ、考える時間をとってから挙手で答えを選ばせる。
- 多くの児童が選んだ答えをクリックし、解説のところで止めて、「必要なもの・ほしいもの」の仲間分けと結びつける。

児童・生徒

- 問題をよく聞いて、手を挙げて答えを選ぼう。
- どうしてその答えが正しいのか、となりの人に説明しよう。

どうしたら助けられる？ · 8分

先生

- 「私たちの地域では、食べ物や服、支えが必要な家族を、だれが助けているかな？」と尋ねる（フードバンク、慈善団体、近所の人、学校など）。
- 付箋に書く振り返りカード（出口チケット）を配る。

児童・生徒

- 知っている「助ける人」を1つ発表しよう。
- 振り返りカードに答えて、黒板の「必要なもの」側に貼ろう。

振り返りカード

すべての子どもに必要なものを1つ書いて、その理由も書こう。

解答例: きれいな水。体が生きて元気でいるために必要だから。（食べ物、安全な家、医療、学校、愛情やお世話など、本当に必要なものであれば、簡単な理由とともに正解とする。）

おうちで

買い物中やテレビを見ているときに、おうちの人と「必要なもの？ほしいもの？」ゲームをするよう児童に勧める。交代で品物を挙げ、一緒にどちらか決める。希望する家庭は、家で Eco Heroes の Explorer ミッション「🧺 Needs vs Wants」（必要なもの vs ほしいもの）にも挑戦できる。

個別対応 · 支援

- 言葉の代わりに実物や写真を使う。読むのが得意な児童と、支援が必要な児童をペアにする。
- 書き出しの文を示す：「____は必要なものです。なぜなら____からです。」

個別対応 · 発展

- ある場所では必要なものでも、別の場所ではほしいものになるカードを探させる（例：寒い国と暑い国での暖かいコート）。
- 家族に十分なものがないとき、だれが助けてくれるかを表す「地域のお助け人」の絵をかかせる。

達成基準

- 必要なものとほしいものを分けて、理由を言うことができる。
- すべての子どもに必要なものを3つ言うことができる。
- 人がおたがいに助け合う方法を1つ言うことができる。

取り扱いの注意

クラスには、今まさに経済的に苦しい生活をしている児童がいるかもしれません。児童に自分の家や収入、持ち物について話させることは絶対に避け、代わりに架空の登場人物を使ってください。貧困は不公平なチャンスの問題であり、人が怠けているとか能力が劣っているということではない、というメッセージを一貫して伝え、だれにも自分がどのグループに当てはまるかを言わせないようにしてください。

オンラインで無料、アカウント不要

- 目標1のミッション動画を見る: **eco-heroes.org/ja/sdg/1/**
- 目標1のゲームのチャプターを遊ぶ: **eco-heroes.org/game/?lang=ja**
- 目標1のクイズに挑戦する: **eco-heroes.org/ja/trivia/?sdg=1**
- 無料の読書ガイドを読む: **eco-heroes.org/ja/library/the-tree-woman/**
- 目標1 教師用パック: **eco-heroes.org/ja/teachers/goal-1-pack/**

出典

- UN — Goal 1: End poverty in all its forms everywhere（英語） — https://www.un.org/sustainabledevelopment/poverty/
- UNICEF — Child poverty（英語） — https://www.unicef.org/social-policy/child-poverty
- UN Convention on the Rights of the Child (OHCHR)（英語） — https://www.ohchr.org/en/instruments-mechanisms/instruments/convention-rights-child

© 2026 Eco Heroes International SL · CC BY-NC-ND 4.0 · creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/